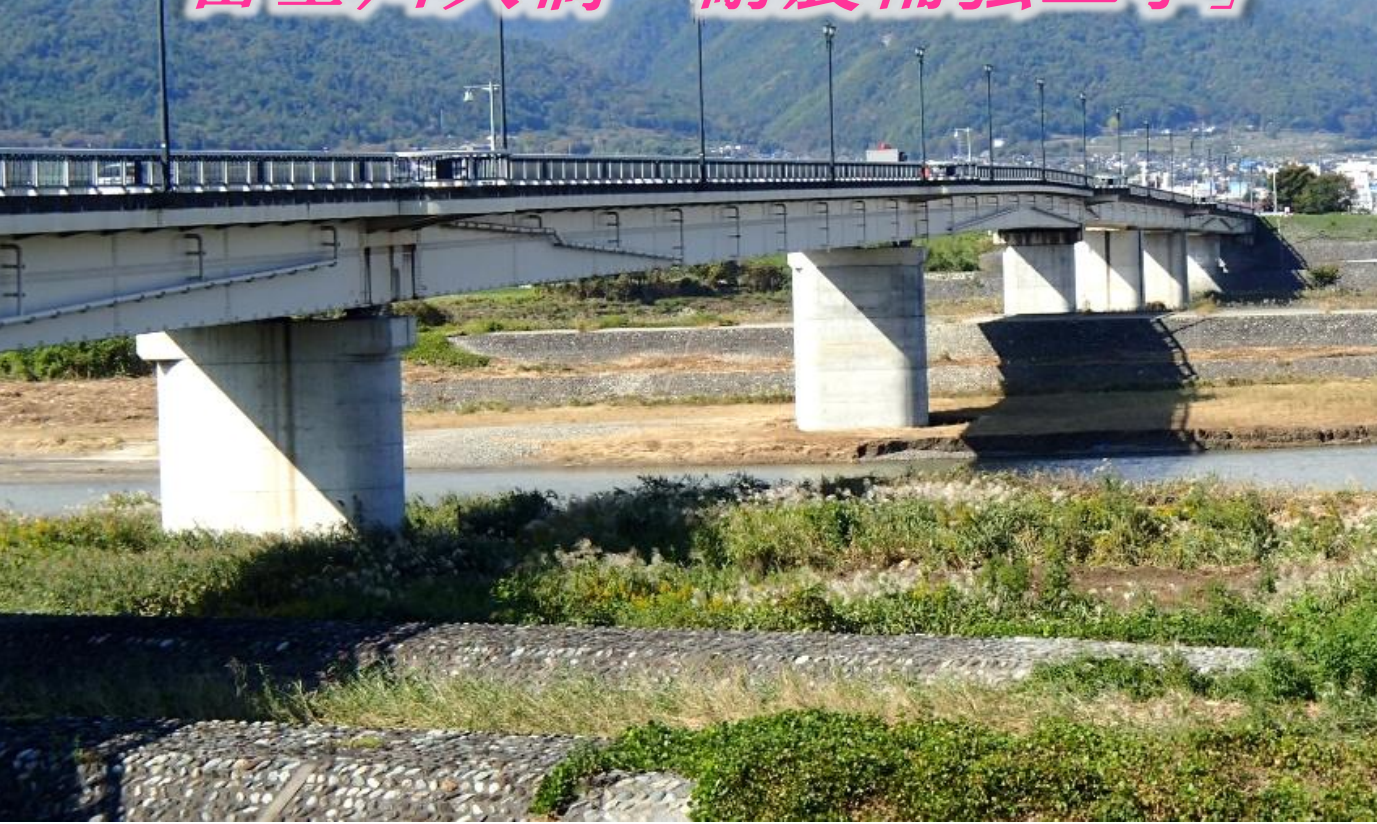


永くいつまでも使えるように！ 「富士川大橋 耐震補強工事」



写真：富士川大橋
(富士川左岸側)



富士川町 &
市川三郷町

富士川大橋は、阪神淡路大震災や東日本大震災を踏まえ、平成25年度に橋梁点検を実施しました。その結果、耐震補強が必要と分かりました。

耐震補強の必要性

富士川大橋は一級河川の富士川により分断された地域間をつなぎ、通勤・通学など多くの人に利用される、生活にも欠かせない農道橋です。供用を始めた頃の1日当たりの交通量は1500台でしたが、付近に道の駅富士川や中部横断自動車道の増穂ICが整備されたことから現在では1日当たり8000台まで増加しています。

富士川大橋とは

富士川大橋は山梨県の南西部、富士川町と市川三郷町をつなぐ橋長605メートルの農道橋で、平成9年度に竣工しました。富士川大橋は広域農道として農作物の流通を促進する役割とともに、災害時には緊急輸送道路として人々の生活の安全・安心に欠かせない役割を担っています。

耐震補強工事

県では平成28年度から富士川大橋の耐震補強工事に着手し、令和2年度竣工を目指して現在も工事が行われています。

具体的な工事内容としては、大きく2つに分けられます。1つ目は橋脚の耐震補強として「鉄筋コンクリート巻立て工法」です。これは現在の橋脚に鉄筋を立てその上からコンクリートで橋の周り一帯を覆うことで、強度を増すことができる工法です。

2つ目は「落橋防止システム」です。これは大規模地震が発生した際に橋自体が落ちてしまうのを防止する役割のある部品を取り付ける工法です。

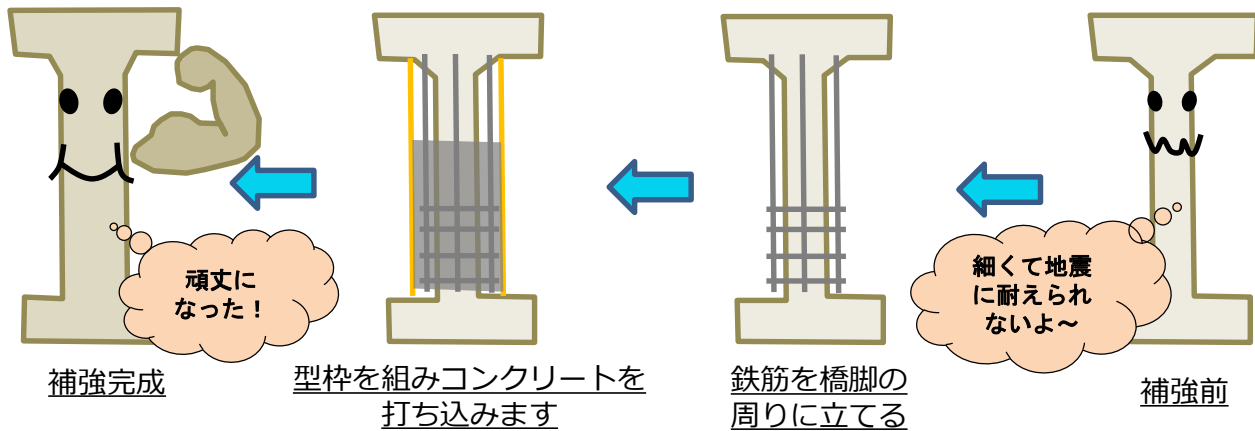
このようにして、大規模地震を想定し、現段階でできる最大限の備えを実施しています。



鉄筋コンクリート巻立て工法 施工状況

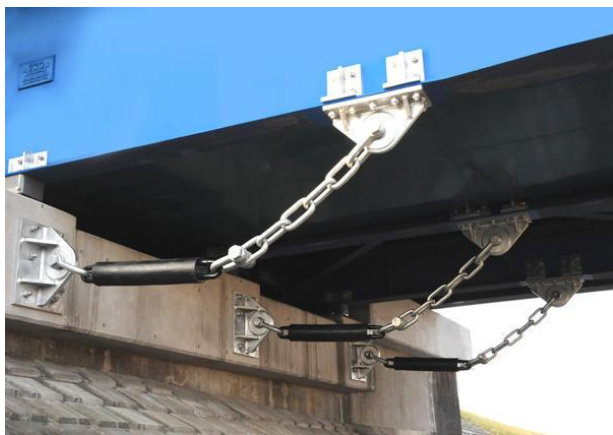
鉄筋コンクリート巻立て工法とは？

橋脚の周りに鉄筋を立て、コンクリートを打ち込むことで、地震が発生した際に耐えられるように橋脚そのものを補強する工事です。今まであった橋脚をコンクリートでぐるりと取り囲むようにすることから「巻立て」という言葉が使われています。



落橋防止システム

大規模地震が発生した際に、橋自体が落ちてしまうのを防止する役割を果たしています。



橋台と橋桁を連結する「緩衝チェーン」



橋桁と橋桁を連結する「PCケーブル」